



●被災地でのボランティア活動

2023年8月、コロナ禍が落ち着いた後、災害ボランティア育成講座の受講者を中心にグループ従業員に呼びかけ、福岡県久留米市にて、豪雨被害の復旧支援に取り組みました。

2024年4月、能登半島地震で被災した珠洲市と七尾市のボランティアセンターの運営スタッフとして活動しました。当社が現地での活動を検討していた

際、内閣府防災担当より「ボランティアを受け入れる災害ボランティアセンターの運営に企業人の力を借りたい」との相談を受け、支援P、経団連SDGs本部と連携してプロボノ的支援に参りました。支援Pの主催でゴールデンウィークに実施され、当社は企業人ボランティアの呼び水となるべく、先遣隊として第1クールに団体で参加し、以降は経団連が会員企業に広くボランティアを呼び掛け、支援のバトンをつなぎました。

2024年10月、豪雨により再び甚大な被害を受けた能登半島の被災地に対し、従業員ボランティアを募り、珠洲市の復旧支援に取り組みました。

【時系列での活動実績(座学での学びから現場実践へ進化)】

- 2019年 ボランティア育成講座 初級編開催(累計受講者:約2,000名)
- 2020年～ ボランティア育成講座 コロナ禍のためオンライン開催
ボランティア育成講座 初級編を映像にしてイントラ公開(社内限定)
- 2021年 ボランティア育成講座 中級編開催
- 2023年～ ボランティア育成講座 初級編映像をネット公開(累計視聴者:約4,000名)
福岡県久留米市での豪雨被害に対する現場での復旧支援活動:7名参加
- 2024年 能登半島地震に対する現地災害ボランティアセンター運営支援:15名参加
能登半島地震・豪雨被害に対する現場での復旧支援活動:15名参加

■活動の成果:

- 講座の開催、映像配信による参加者のすそ野の拡大。
- 現場での支援活動による経験の蓄積や被災地との顔の見える関係の構築。更に、参加した従業員が、被災者、NPO、社会福祉協議会の方々とのコミュニケーションから多くの学びを得て、協働の意義を理解する機会となった。
- 参加従業員によるコミュニティが形成され、各自が被災地支援に継続して取り組み、発信しあうことで、活動の輪の広がりや多くの従業員の共感を得ている。



第10回企業ボランティアアワード『特別賞』